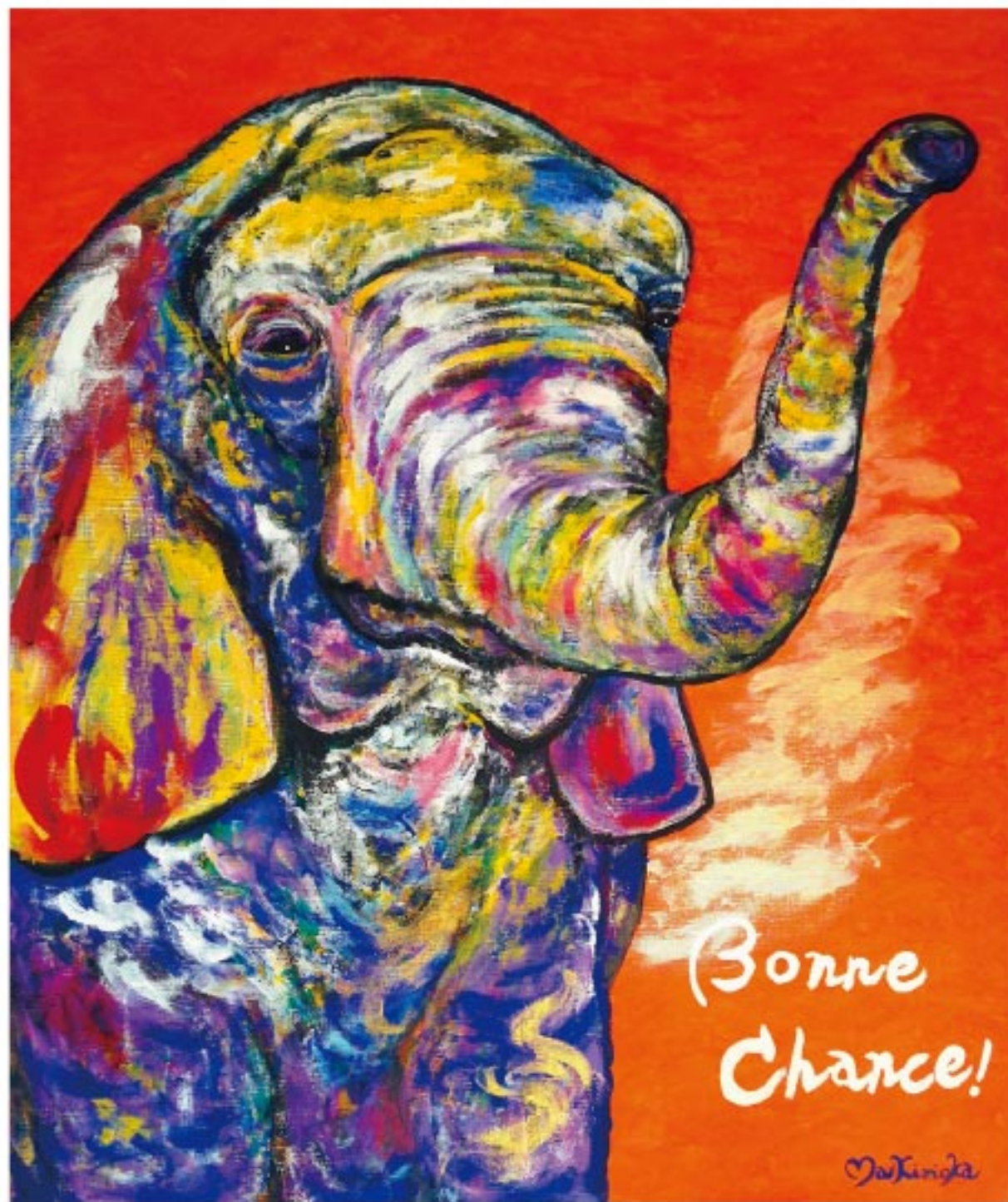


日本作編曲家協会会報
Vol.46
March, 2023



■目次

JCAA 理事選挙のお知らせ、インボイス制度の補足情報	2
コンサート報告（栗田信生、武内陶子）	3,4
追悼文（加藤みちあき、猿谷紀郎、三枝成彰、吉田 洋）	5,6
クロスワードパズル（横山 淳）	7
編集長のひとりごと（寺嶋民哉）	8

JCAA 理事選が行われます。

3月29日に事務局から投票用紙をお送りいたします。

投票の締め切りは**4月19日必着**です。郵便事情を踏まえて4月14日（金）までに投函してください。

投票しましょう！

JCAA 理事選

投票締め切り 4月19日必着

※4月14日までに投函ください。

開票 4月20日

令和5年度税制改正大綱によるインボイス制度の変更点

前号で特集したインボイス制度ですが令和4年12月に発表された令和5年度税制改正大綱によりいくつか変更がありました。

○詳細は財務省ホームページ「インボイス制度の改正案に関する資料」をご覧ください。



財務省「インボイス制度の改正案に関する資料」

■小規模事業者に対する納税額に係る負担軽減措置

売上が1000万円以下で、インボイス発行事業者の登録をしなければ、課税事業者にならなかった事業者を対象に、納税額を売上税額の2割に軽減する緩和措置が令和8年申告分まで適応されます。

※ただし、インボイス制度開始前（2023年10月1日より前）から課税事業者を選択している事業者は対象外となります。

■一定規模以下の事業者に対する事務負担の軽減措置

年間の課税売上高が1億円以下、あるいは特定期間における課税売上高が5,000万円以下の事業者は、支払対価の額が1万円未満の課税仕入れについてはインボイスの保存がなくても、帳簿のみで仕入税額控除ができる経過措置が設けられました。この経過措置は、2023年10月1日から2029年9月30日まで施行されます。

■少額な返還インボイスの交付義務の見直し

インボイス制度が施行されると、インボイスの交付と共に、返品や値引きを実施する際には「適格返還請求書」の交付が義務化されますが、小額な値引きや返品等（税込1万円未満）である場合には、この「適格返還請求書」の交付は不要となりました。

■登録手続の見直しと手続の柔軟化

これまで2023年10月1日のインボイス制度施行開始日よりインボイス制度の登録を受けるためには、原則として2023年3月31日までにインボイス制度への登録申請を済ませなければならず、4月以降の申請の際には申請書に「3月までの申請が困難な事情」を記載する必要がありました。それが今回の変更で4月以降も申請書に「3月までの申請が困難な事情」を記載を求められないこととなりました。これによって、登録期限が実質9月末まで延長になりますが、登録申請から登録通知までに時間がかかるようですので申請する場合には充分注意してください。

■補助金などの変更

免税事業者がインボイス制度に登録した場合、持続化補助金の補助上限額が一律50万円加算されることになりました。また、IT導入補助金（デジタル化基盤導入類型）の補助下限額が撤廃され、安価な会計ソフトの導入のためにも補助金を申請できるようになりました。

音楽の料理人たち ～フォーエヴァー・真のアレンジャー川口 真～



川口 真先生

我々の「先達」として、JCAAの前身である「アレンジャー協会」から今に至る職業音楽家達の道を拓き偉大な功績を残された先生です。

2021年に逝去された川口 真先生を偲び、JCAA プレゼンツ「音楽の料理人たち」～フォーエヴァー・真のアレンジャー川口 真～が2022年8月29日第一生命ホールで開催されました。コンサートプロデューサーの萩田光雄さんより、今回は敢えて川口先生のオリジナルアレンジを尊重し踏襲しようとお考えを聞き、JCAAから萩田光雄、小六禮次郎、梅垣達志、栗田信生の4名が編曲を担当させて頂きました。

川口先生の作品は非常に多く、その全てを紹介しきれなかった事は誠に残念でしたが、川口作品の多様な側面を取り上げた17曲を演奏し、改めて功績の偉大さを再認識したところです。由紀さおり、まきみちる、バク・ジュニョン、オルリコの皆さまにお歌いいただきました。作曲作品として「人形の家」「手紙」「他人の関係」「嫁に来ないか」「積木の部屋」、編曲作品として「いい日旅立ち」「時の流れに身をまかせ」など、それぞれに印象的なフレーズや技法があり、シネマティックなシーンが胸に浮かびます。

CMでも使われた「いいもんだな故郷は」では川口先生による現存オリジナルスコアを用いた演奏による歌唱で個人的にも興味深く非常に有意義でした。

ニホンジンならみんな知ってる。

そういった作品の数々。世界に羽ばたきそれぞれの国に根付いたものもあります。常に進化し変化を遂げる日本の音楽シーンの中で、今もなお輝き続ける川口先生の作品は後進達の励みにもなりましょう。

司会進行の小六さんをはじめ個性溢れる編曲家達による愉快的パフォーマンスもあり、萩田、梅垣両氏の「ウルトラマンタロウ」ではお面を被りウルトラマンになって歌い、お客さまを大いに沸かせておりました。(個人的にはバツバツのウルトラマンスーツで登場して欲しかったのだがそれが叶わなかった点だけが心残りです) コンサート最後に出演者全員で「五月のバラ」をお客様も一緒に歌唱いただき川口先生を皆で偲ぶことができました。

川口 真先生、素敵なお作品を残していただき有り難うございました！

栗田信生 合掌

音楽の料理人たち ～フォーエヴァー・真のアレンジャー川口 真～

2022年8月29日(月) 第一生命ホール

【出演】

小六禮次郎、萩田光雄、梅垣達志
由紀さおり、まきみちる、バク・ジュニョン、オルリコ

【編曲】

小六禮次郎、萩田光雄、梅垣達志、栗田信生

【指揮】

栗田信生

【演奏】

音楽の料理人スベシャルバンド
エルトン永田 (ピアノ)、伊藤史朗 (ドラムス)、長岡道夫 (ベース)
古川望 (ギター)、大久保明 (ギター)、田代修二 (キーボード)
加藤高志カルテット (弦楽四重奏)、佐野博美 (サクソ)



「大好きなコーラスプラスに寄せて」
NHK エグゼクティブアナウンサー 武内陶子

コロナ禍で開催することができなかった「ザコーラス・プラス」が久々に開催された。ご縁あって司会をさせていただいている私にとっては、お仕事ではなく完全に「年に一度のお楽しみ」である。無類の音楽好きの私が、毎回「音楽でこんなに心が動くものなの？」とびっくりするほど面白いコンサートだ。ほとんどの曲が世界初演。その上、作った先生たちがこぞ出てきて目の前で喋ってくれる。そしてその曲を初めて聞いた感動の気持ちを司会の私は喋りまくり、会場のお客様たちと気持ちをシェアすることができるコンサートなのだ。そもそも司会が喋りまくっていいコンサートなんてそうそうあるもんじゃない。こんなに幸せなことはないのである。まるで私が毎日やっているラジオの放送みたいだ。

思えば私の音楽好きを知る大学の同級生、ピアニストで作曲家の武永京子から「陶子ちゃん、コンサートの司会やらない？」と誘われたのがそもそもの始まりだ。なぜか音楽

番組に携わるチャンスがなかった私には（一度だけ紅白の総合司会はやったことがあるが、笑）まさに渡りに舟だった。飛びつきたくなる本心を隠しながら「え、いいの？」と平静を装い、友情出演という気持ちでお引き受けすることにした。日本作編曲家協会というところが底なし沼のものすごい団体だということも知らずに、、、。

毎回出てこられる先生たちは日本の数々の音楽シーンを作り上げてこられた神のような方々、そして今をときめく意欲あふれる若手の先生たち。コーラスしばりという中で（コーラスがないものもあるが笑）それぞれの引き出しで音楽を出し合う。心の中の開けたことのない扉が次々と開かれてゆく。聴いたことのない音が詞と一体になって身体の中で弾けていく。音楽ってこういうものかと涙が出そうになる。毎日がそんな音楽体験だ。コロナ禍で凝り固まった私たちの心をほぐしてくれたもの、それは音楽だった。

さて、次回はどんな体験をさせてくれますか？今からワクワクが止まらない私である。

The Chorus Plus VI

2022年11月25日(金)

【参加作曲家】

一柳慧、額谷紀郎、武永京子、鍋島佳緒里、新実徳英、原田敬子、富貴晴美、湯浅譲二

【出演】

西川竜太（合唱指揮）、空（くう）（混声合唱）、曉（女声合唱）、金子麗寛（二十五絃箏）、駒井ゆり子（ソプラノ）、宮藤順（コントラバス）
土橋隆人（ギター）、西澤春代（クラリネット）、深海さとみ（歌）、福永千恵子（十三絃箏、十七絃箏）、本條秀英二（三味線）
丸田美紀（十三絃箏、十七絃箏）、ヨウ・ホン（デグム）、吉村七重（二十絃箏）

追悼・おたか静流さん 加藤みちあき

ミュージズが旅立った。

100歳になっても（そもそも年齢なんて概念はおたかさんには無いけれど）出会った頃と少しも変わらぬ声で歌っていると思っていたのに。

おたかさんとの出会いは、ふたりともまだ何者でも無い頃。

友人に誘われて行ったライブで、偶然、おたかさんが歌っているのを観たのが初めての出会いだった。テクニシャン揃いのそのバンドの中でも圧倒的な存在感で強烈に記憶に残った。

その後瞬く間に、おたかさんは音楽業界で存在感を放ち（CMの女王と呼ばれていた様な？）、自分もやっとCMやアレンジの仕事を作り始めるようになった頃、おたかさんと幾つか仕事をした事がきっかけで、dido（海外でも同名のアーティストがいるが、こっちの方が先）というユニットで2枚のアルバムをリリースする事となった。

レコーディングは毎回挑戦だった。おたかさんの前に生半可な曲なんて出したら終わりだ、みたいな気持ちで挑んでいたのを思い出す。



おたかさんとは沢山の時間を過ごしたけれど、音楽について話した事は一度も無かった様に思う。音だけで繋がっていたなんて言うつもりは無いが、思い出すと不思議だ。

もっと一緒に音楽をやりたかった。真剣に音楽の話もしてみたかった。

おたかさんは間違い無く自分の音楽人生に一番影響を与えてくれた、そして数少ない戦友（おたかさんもそう言ってくれた）と呼べる人でした。

キャリアの初期に出会い、最近まで一緒に音楽出来た事は僕の宝物です。本当にありがとうございます。また会いましょう。

追悼・一柳 慧さん 猿谷紀郎

初めてお目にかかったのは、第3回芥川作曲賞の本選でした。ジュリアードの先輩であり、尚且つ共にヴィンセント・パーシケッティに師事した大先輩ということで、私は勝手に親しみを抱いておりました。そんな私に対して始めから極めて丁寧に接して下さい、この方は本当の紳士なのだとか心から感激した記憶があります。それから間もなく一柳さんが主宰されていた、Tokyo International Music Ensemble、これは尺八、琴、琵琶、龍笛、笙、打楽器等という邦楽器をメインにしたアンサンブルで、この団体への委嘱を下さいました。恥ずかしいことに、邦楽器に関して全く知識も経験も持たない私は、凄まじいカルチャーショックを受けた経験になりました。この新作を携えてヨーロッパを5、6箇所演奏旅行に連れて行って下さったのですが、最終公演では一柳さんの新作と私の新作の順番を入れ替えて、私の曲をトリになさいました。厳格な一柳作品に比べて、私の曲はわかりやすかった為に、お客様からの反響が大きかったのだと思います。これをきっかけに、伶楽舎の芝祐靖氏、尺八の三橋貴風氏を



始め、多くの邦楽界の重鎮とお知り合いになる事ができ、その後多くの作品を書くことになりました。私に取って、極めて重要な指針を示して頂いたと、心から感謝しております。先日の「ザ・クロス・トーク・プラス」の際も、2時間近く打ち合わせの時間をわざわざ取って下さり、非常に内容の濃いものになったのは、言うまでもありません。その驕らないフェアなお人柄は、初めてお会いした時と寸分変わらず、その真摯さが作品を通じて、我々にこれからも伝わっていくのだということ、改めて確信しました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

入野禮子さんとのこと

入野禮子さんと初めてお会いしたのはいつごろだったろうか。四、五十年のおつきあいになるかと思う。JCAAの会合など、何か皆で集まる折にはお会いできていたので、すでに旅立たれてしまったことが信じられない。

入野さんとの出会いをさらにさかのぼると、私の子ども時代にまで行き着く。

私が作曲家になることは、生まれる前から決まっていた。いや、決められていた。自身が作曲家をめざしてかなわなかった父が、「息子が生まれたら作曲家に」との強い意向を持っていたため、私の職業はすでに確定していたのだ。

禮子さんとは、私が小学校時代に作曲を習っていた入野義朗先生の奥様として知己を得た。

義朗先生亡きあと、禮さんは先生のご功績を顕彰する国際作曲賞「入野賞」を創設されたほか、その



遺志を継がれ、ACL（アジア作曲家連盟）の活動などを通じて日本の現代作曲家の作品を広くアジアに紹介される活動にも従事された。その行動力にはいつも敬服していた。

私たちがアジアの優れた作曲家たちと知り合うことができたのは、入野さんのご尽力に負うところが大きい。

よき先輩、入野禮子さんが切り拓かれた道を、いま私たちは歩んでいるといえる。その想いは、これからますます強くなるだろう。

追悼・竹村次郎さん

JCAA入会も竹村先生のご紹介でした♪
吉田 洋（ピアニスター HIROSHI）

冒頭1小節を聞いただけで題名を即答できるヒット曲は数多くあるにせよ、歌の旋律以上に前奏が強烈な印象を与える作品となれば、流石に限られるのではないのでしょうか？

小学校に上がる直前、まだ「バイエル下巻」に懸命に取り組んでいた頃の私の耳に、音が描く「禁断の色気フレーズ」として突如、突き刺さり、母親からは「こんな大人の曲、聴いちゃいけません！」と窘められつつも、電波に乗って放送される度、うっとり聴き惚れていたのが、他ならぬ竹村次郎先生の代表作、「伊勢佐木町ブルース」のイントロでした。

30代半ばにサンミュージック・プロダクションへの所属が決まり、創設メンバーとして頻りに顔を出されていた先生が、実は大の「冗談音楽フリーク」でいらっしょって、古今東西のパロディー・コレクションを惜しげもなく資料提供下さったり、JCAAへの入会を強く薦めて下さったりと、お世話になりっ放



してしたから、この場を借りて、深く御礼申し上げると同時に、音楽家ではないご子息が、葬儀の際、「実は、どうしたものかと」と呟かれていた、ご自宅にギッシリ並べられた膨大な音源資料の行く末が、少々、気がかりです。

「我が家にどうぞ！」と申し上げたいところながら、流石に置き場が無さそうで、どうすりゃいいのさ、思案橋・・・あ、これは「伊勢佐木町」じゃなくて「長崎」でしたね～（苦笑）。

どうぞ、安らかに眠り下さい。私も先生に習って、「生涯JCAA会員」を買きます☆

クロスワードパズル

by 横山 淳

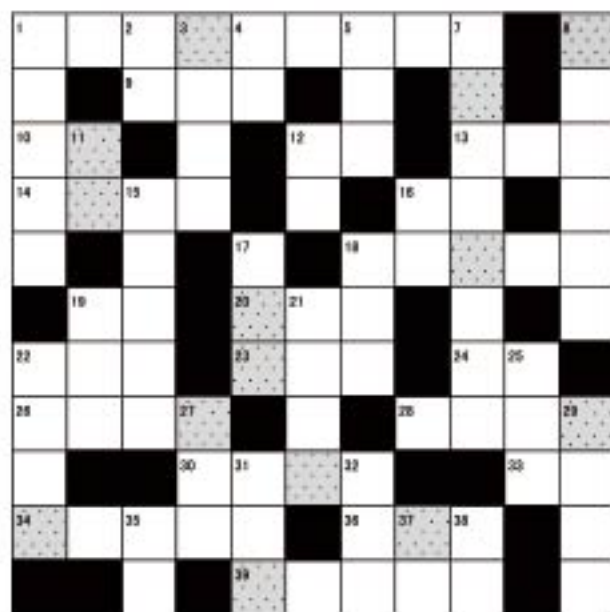
このパズルがみなさんの目に止まる頃は、もうそろそろ春！という時期でしょう。寒い冬を耐えてきた花や木々も生き生きとしてくる季節です。ということで今回は「植物と音楽」です。網がかかったマスの言葉を組み合わせると、日本五大桜がある県名が現れます。5つ全部お答えください。なお、文字は何度でも使えます。1文字だけ小さい文字を大きい文字として使います。

ヨコのかぎ

- 1949年にオラトリオ「森の歌」を作曲したのはこの人
- 『ぶなの森の葉陽に』で始まるシューマン作曲の「流浪の民」の原詩(ガイベル作詞)で「der Nil」となっている川は○○○川のことです。
- 1951年に岡本敦郎が歌った「リラの花咲く頃」のリラは○○ラックとも呼ばれます。
- 1966年にマイク眞木が歌った浜口庫之助作詞・作曲の歌「○○が咲いた」
- 1989年にアルバム「Apples」を発表したのは、イギリスのシンガー・ソングライター○○○・デューリーです。
- 2008年の細川俊夫が発表した室内楽曲「時の花」には、「オリヴィエ・○○○○へのオマージュ」という副題が付いています。
- コブクロの11枚目のシングルは「○○にしか咲かない花」です。
- くるりの「ばらの花」の歌い出しは「○○○○朝で」です。
- 江間章子作詞「ナスナに寄せて」に作曲したのは1911年生まれの作曲家○○幸明です。
- kanoko 作詞・岩垂徳行作曲で井上あずみが歌った「Little Flower」の後半に出てくる歌詞「○○○なびく大地にも似た愛の世界へと」
- 津島一郎作詞・作曲で山本譲二が歌う「風鈴」で2コーラス目は○○○咲く花 木犀の」という歌詞で始まります。
- 森山直太朗、コブクロ、ケツメイシ。多くの歌手にこのタイトルの曲があります。春の花、日本の花「○○○」
- イタリアのオペラ作曲家ブッチーニの数少ない室内楽曲「○○○」日本でもおなじみの秋の花です。
- チェコの作曲家ドヴォルザークが自作の歌曲12曲を弦楽四重奏曲に編曲したのが「弦楽四重奏のための『○○○○』」です。
- ブッチーニの「蝶々夫人」の有名なアリア「ある晴れた日に」の後半にある歌詞「彼は少し心配して呼ぶわ。こう呼ぶの。小さな奥さん。○○○○の香りの君よ」花の名前が入ります。
- 2007年のアンジェラ・アキの曲「サクラ色」の中の歌詞「否定の言葉に押しつぶされても 這い上がり○○○○続けた」
- 寺島尚彦作詞・作曲で森山良子が歌った「さとうきび畑」の中の悲しい歌詞「あの日○○○の雨にうたれ 父は死んでいった」
- サンコン Jr./ トータス松本作詞・作曲 ウルフルズの「ヤラカシ男」の冒頭歌詞「黙々と家庭菜園 ベランダで○○○○を」
- Gackt.C 作詞・作曲で GACKT が歌う「サクラソウ」の歌詞「あなたは 何よりも綺麗な花○○○」
- 1970年のイタリア・フランス・ソビエト連邦・アメリカ合衆国の映画「ひまわり」のすばらしい音楽はヘンリー・○○○○が担当しました。

タテのかぎ

- 1975年にリリースされた小椋 佳作詞・作曲の名曲「○○○○のかほり」
- 1995年稲葉浩志作詞・松本孝弘作曲のB'zの曲タイトル「○○の花びら」



- 八代亜紀作詞 山本茉莉補作詞・弦哲也作曲で青木美保が歌った曲タイトル「○○○○の花～第二章～」
- 弦楽器の弓の毛がついていない部分で演奏する奏法 ○○・レーニョの「レーニョ」はイタリア語で「木」という意味です。(弦楽器奏者は嫌がる奏法です。)
- 管弦楽曲「熱帯林の夜明け」を書いたのはブラジルの作曲家エイトル・○○○=ロボスです。
- 有名な「花のワルツ」は○○○○○○○○の作品です。
- 吉永小百合が1967年に発表した曲タイトル「○○○○○○の下で」(佐伯孝夫作詞・鈴木邦彦作曲)
- プロコフィエフ作曲のバレエ音楽「○○の花」ウラル地方の民話を基にしています。
- 和太鼓の○○の材質はカシ、ブナ、ホオ、ヒノキなどです。
- スペイン近代の作曲家イサーク・○○○○○の「スペインの歌」の第3曲は「やしの木陰」です。
- 大槻ケンヂ作詞・作曲「日本の○○」はロックバンド筋肉少女帯の2008年発表の曲です。
- 別名「歯磨草」とも呼ばれる植物○○○は、クラリネットなどの葦製リードを巻いて調整することにも使われます。
- タテの1の答えの曲を取ったのは、布施○○○です。
- 「春と別れて 花は散り ○○○別れて 泣く 落ち葉」という歌詞は美空ひばりが歌った「哀恋歌」(石本美由起作詞・市川昭介作曲)です。
- 加藤省吾作詞・海沼實作曲の「みかんの花○○○○」は1946年に発表され、川田正子が歌い大ヒットしました。
- アメリカの作曲家チャールズ・○○○○の歌曲に「2輪の可憐な草花」という歌曲があります。
- 「Merry go round 希望の火を○○○」と歌うレミオロメンの「Merry go round」ですが、次のサビでは「Merry go round 3月の花が」と歌われます。(藤巻亮太作詞・前田啓介作曲)
- 19世紀フランスの作曲家 ナポレオン・コストの曲「秋の木の葉」は○○○で演奏される音楽です。
- 佐野元春の22作目のシングルは1986年リリースの「SEASON IN THE SUN -○○○○の誘い-」です。
- イギリスのロックバンドクイーンの3作目のアルバム「シアー・ハート・アタック」の5曲目は「Lily of The Valley (○○○の百合)」です。
- 滝廉太郎作曲「荒城の月」1番の歌詞は「春高樓の花の宴 めぐる盃かけさせて 千代の松が枝わけ○○○ むかしの光いまいずこ」です。
- イギリス民謡をもとにした童謡「大きな栗の○○○下で」は2007年に日本の歌百選の1曲に選ばれました。
- フランスの作曲家セヴラックのピアノ作品を集めた館野泉のCDタイトルは「ひまわりの海 サンフラワー ○○」です。(カタカナ部分は英文)
- 松本隆作詞・細野晴臣作曲「風の○○のナウシカ」は「金色の花びら 散らして 振り向けば まばゆい草原」という歌詞で始まります。

編集長の



ひとりごと

スマホも携帯も無かった頃は、好きな人や憧れの人に電話する時ってかなり厳しいハードルがありましたね。運良く電話に本人が出ればラッキーなのですが、お父さんなんかが出たりするともう……。

でもまあそれが、知らない大人へのコミュニケーション能力の第一歩などと言われたものですが、さてどうなのでしょう。

そういう頃のおはなし。僕の先輩が憧れの女性に思い切って電話をしま

した。電話に出たのは妹くん。多少ホッとしながら、「あ、〇〇と申しますけど〇〇さんいらっしゃいますか？」「あ、はいはい、います。ちょっと待ってくださいね。」電話の向こう、階段を駆け上る音の後しばらく待っていると、遠くから妹くんの声ははっきりと聞こえました。

「だっているって言ったんだもん！仕方ないじゃ無いっ！」

寺嶋民哉



【過去】 隠してお悔やみ申し上げます。

一柳 慧 (2022年10月7日)

入野 禮子 (2022年10月29日)

竹村 次郎

(2023年1月9日)

【編集】 末崎正展

(敬称略)

シ	ユ	ス	タ	コ	ー	ヴ	イ	チ	オ
ク	ナ	イル	イ	ヤ					レ
ライ		リ	バラ	イ	アン				
メ	シ	アン		チ	ココ				ウ
ン	ル		ト	ア	メ	フリ			ノ
	ア	ベ	ク	サ	キ		ス		キ
ア	キ	ニ		サ	クラ		キ		ク
イト	ス	ギ		オ		バ	ー	ベ	ナ
ヴ			タ	タ	カイ				ツ
ズ	ッ	キ	ー	ニ		デ	シ	タ	ク
		ノ		マン	シ	ー	ニ		サ

クロスワード答え 「福島、埼玉、山梨、静岡、岐阜」

三春滝桜 福島県田村郡三春町、石戸藩ザクラ 埼玉県北本市、山高神代桜 山梨県北本市、狩宿の下馬ザクラ 静岡県富士宮市 別名(駒止めの桜)、根尾谷の淡墨桜 岐阜県本巣市以上日本五大桜です。

JCAA ジャーナル vol.46

表紙絵 キリオカマキ「Bonne Chance!」

発行人 小六禮次郎

広報部 寺嶋民哉(編集長) 芥川マスミ 桐岡麻季 萩田光雄 光宗信吉 横山淳

事務局 萩田恭代 佐立努 三村きい 木内敦子

発行所 一般社団法人日本作編曲家協会(JCAA)

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-13-8 五反田山崎ビル 407 号室

TEL.03-6666-6266 FAX.03-6666-6267 <http://www.jcaa1970.com> info@jcaa1970.com